

<科目構成の考え方>

・新必修科目「公共（仮称）」で習得した個人が判断するための手掛かりとなる考え方を基盤とし、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための概念や理論を理解し、それらを活用して現代の倫理的諸課題を探究するとともに、人間としての在り方生き方についてより深く自覚し、人格の完成に向けて自己の生き方の確立を図る主体を育む「倫理」に発展させる。そのために、思想史の断片的な知識の暗記中心から、「倫理的価値の理解」を基にした「考える倫理」に転換する。

新必修科目
「公共（仮称）」

現行公民科目

倫理

(1) 現代に生きる
自己の課題

(2) 人間としての
在り方生き方

- ア 人間としての自覚
- イ 国際社会に生きる日本人としての自覚

(3) 現代と倫理

- ア 現代に生きる人間としての倫理
- イ 現代の諸課題と倫理

資質・能力

○現代の諸課題を捉え、より深く思索するために必要な概念や理論の理解

○諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能

新必修科目で育まれた資質・能力を活用し、思索を深める科目

○課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力

○現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚など

(1) 「公共」の扉

(2) 自立した主体として社会に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

新選択科目「倫理（仮称）」

(1) 自己の課題と人間としての在り方生き方

⇒自己の生き方を見つめ直し、自らの悩みや体験を振り返り、「公共（仮称）」で取り扱った社会との関わりに加えて、自己の課題を他者、集団、生命や自然などとの関わりも視点として捉え、多面的・多角的に考察し、思索を深める。

（課題例）人間としての在り方生き方の自覚（人間観（愛・徳）・倫理観（善・共感・義務・幸福・正義）・世界観（真理・存在）・宗教観（聖）・芸術観（美））、国際社会に生きる日本人としての自覚（人間観・倫理観・自然観・宗教観・芸術観）

(2) 現代の諸課題と倫理

探究

⇒現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深め、論理的思考力を身に付け、自己の生き方の確立を図るために探究する。

（課題例）自然・科学に関わる諸課題と倫理（技術の倫理・医療の倫理・動物の倫理など）、社会・文化に関わる諸課題と倫理（福祉の倫理・宗教の倫理・平和の倫理など）

【学習活動の例】

- ・我が国を含む古今東西の先哲たちの基本的な考え方を手掛かりとするため、先哲の原典の口語訳を読む
- ・哲学に関わる対話的手法等も活用

一部移行

拡充